

2010年度 京都大学 前期 世界史



中国共産党は第一次世界大戦後コミンテルンの指導下に結成され、その後軍閥打倒のため国民党と第一次国共合作を行って北伐を開始したが、国民党の蒋介石による上海クーデタで合作は崩れた。その後、日本の満州進出が激しくなるなか、瑞金の中華ソヴィエト共和国に対し蒋介石が猛攻を加えたため、共産党は長征を行って拠点を延安へ遷す一方、八・一宣言を発して一致抗日を呼び掛けた。これに呼応して張学良が起こした西安事件を機に両党の話し合いが始まり、日中戦争の勃発直後に第二次国共合作が成立し、両党は協力して抗日戦を遂行した。しかし、日本が敗れると内戦が再開され、勝利した共産党が中華人民共和国を建国し、国民党は台湾へ逃れた。(300字)



A

- a ユーフラテス b アッカド c アマルナ d アラム
e アケメネス f ティグリス g アレクサンドリア h メディナ
i ブハラ
(1) (ア) バビロン (イ) K (2) C (3) F (4) パルミラ (5) J

B

- j イヴァン4世 k クリム=ハン国 l 女真(満州) m ホンタイジ
n 雍正帝 o チベット p ジュンガル q マカートニー
(6) キプチャク=ハン国 (7) イェルマーク (8) ウラル山脈
(9) 瀋陽 (10) 順治帝 (11) ネルチンスク条約 (12) アフガニスタン王国



古代ギリシア・ローマでは、初め貴族の騎兵が軍隊の主力であったが、やがて中小土地所有の平民が自弁で武装すると、その重装歩兵が軍事力の主力となった。彼らは参政権を要求し、貴族の政治独占は打破され貴族と平民の法的な平等が実現した。しかし戦争などにより兵力の担い手であった市民が没落すると、傭兵が多用されるようになった。西洋中世では、外民族の侵入による混乱を背景に、主君が臣下に封土を与えて軍役を課す封建制が形成され、その下で騎士軍が軍隊の主力となった。その結果、諸侯や騎士が権力を握り地方分権的体制が広がった。しかし中世末期には諸侯・騎士が没落し、中央集権化を進める王権の下で傭兵が重用されるようになった。(300字)

**A**

- a ウラディミル 1 世
- b イヴァン 3 世
- (1) レオン 3 世
- (2) キュリロス (メトディオス)
- (3) メフメト 2 世
- (4) カエサル
- (5) チェック人 (スロヴァキア人)
- (6) イエズス会
- (7) (ア) コサック
(イ) ステンカ=ラージン

B

- (8) (ア) 黒死病 (ペスト)
(イ) ボッカチオ
- (9) ハプスブルク家・ヴァロワ家
- (10) フロンドの乱
- (11) マルサス
- (12) (ア) (第 1 回) 万国博覧会
(イ) マンチェスター
(ウ) ヴィルヘルム 2 世
- (13) (ア) アメリカ合衆国
(イ) ジャガイモ飢饉

C

- (14) 東ティモール
- (15) 強制裁培制度
- (16) 錫
- (17) サレカット=イスラーム (イスラーム同盟)
- (18) 北緯 17 度をベトナム民主共和国とベトナム国の暫定的軍事境界線とし、南北統一選挙を行うことを約束した。
- (19) スハルト
- (20)(ア) シンガポール
(イ) 先住民のマレー人優先政策に中国系住民が反発した。